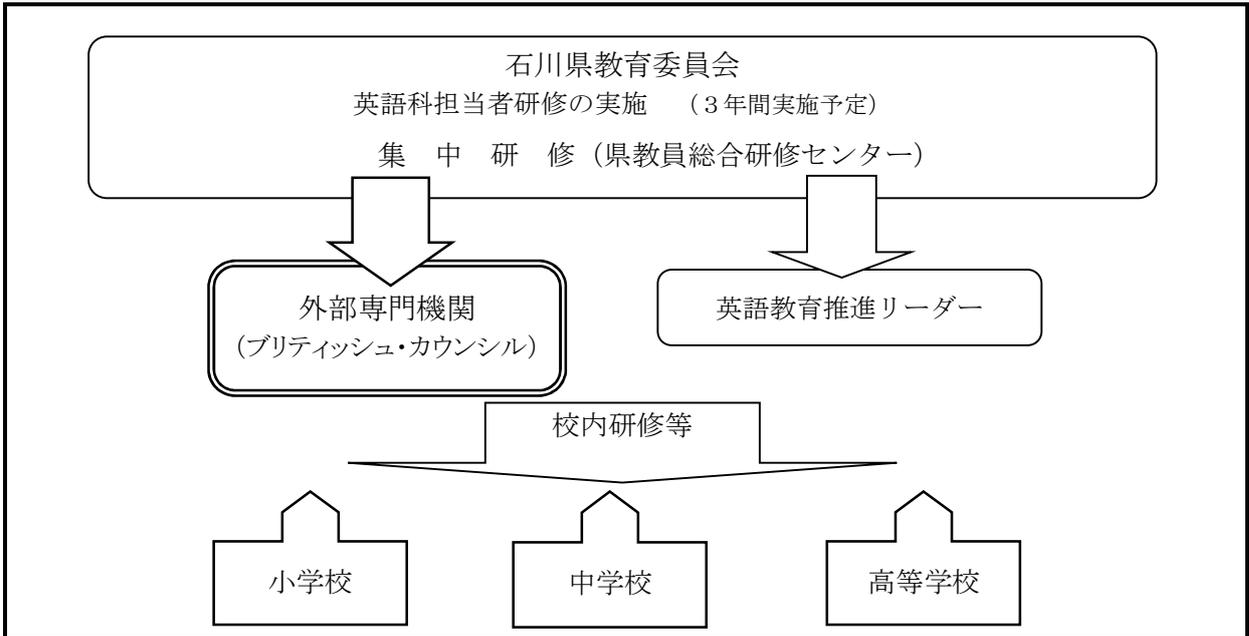


(様式3-2)

石川県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

① 求められる英語力を有する英語担当教員の全英語担当教員に占める割合

【中学校】 H29：達成値 44.8% H30：目標値 50%

【高 校】 H29：達成値 89.3% H30：目標値 92%

平成29年度の達成値は、中学校では44.8%であり、県設定の目標値にほぼ達しているが、国の目標値には達していない状況である。高校では89.3%であり、目標値に達している。今後とも、あらゆる機会を捉え、英語担当教員に外部検定試験の受験を促す。また、研修等において、英語担当教員の高度な英語力の獲得と指導力向上を目指すとともに、自己研鑽を推奨していく。

② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

【中学校】 H29：達成値 50.2% H30：目標値 55%

【高 校】 H29：達成値 43.3% H30：目標値 50%

学校訪問や研修等において、生徒の4技能を総合的にバランス良く育成することができるよう、指導と評価について改善を促すとともに、生徒の能力を適切に把握するために、外部検定試験を積極的に活用するよう働きかけている。今後も、教員が英語で授業を行うことを基本とし、言語活動の充実を図るなどの授業改善を継続的に行うことによって、生徒に実践的な英語力を身に付けさせるとともに、パフォーマンステストの実施方法や評価方法の工夫について、研修や学校訪問等を通じて、指導・助言していく。

③ 「CAN-DO リスト」形式で設定した学習到達目標の整備状況

【中学校】 [設定] H29：達成値 100% H30：目標値 100%

[公表] H29：達成値 33.3% H30：目標値 40%

[達成状況の把握] H29：達成値 65.5% H30：目標値 70%

【高 校】 [設定] H29：達成値 100% H30：目標値 100%

[公表] H29：達成値 28.3% H30：目標値 100%

[達成状況の把握] H29：達成値 60.4% H30：目標値 100%

中学校、高校全ての学校において、「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標は設定している。中学校においては、28年度、全英語担当教員を対象としたセミナーを開催し、自校の

CAN-DO リストを持ち寄り、指導と評価の一体化についての協議を行った。29年度は、小中学校で英語教育強化拠点校を指定し、小中連携を踏まえた CAN-DO リストの作成に取り組んだ。

今後も、「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標を児童生徒の実態や次期学習指導要領の実施に向けて改善を図るとともに、設定・公表・達成状況の把握が行われることを目指し、計画的な取組を進めていく。

④ 授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

【中学校】H29：達成値 89.9% H30：目標値 95%

【高校】H29：達成値 42.5% H30：目標値 60%

中学校においては、授業における生徒の言語活動は、比較的よく行われているという結果が出ている。しかし、単元の主たる目標に迫るための目的が明確な言語活動の展開、教科書本文やその内容を生かした言語活動の工夫、他の領域と関連付けた統合的な言語活動の工夫等については、十分とは言えない状況にあるので、授業改善を図っていくよう働きかけていく。

高校においては、外国語指導助手(ALT)、ICT等を活用するとともに、ペアワーク、グループ活動等を取り入れ、生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりする言語活動に取り組む授業を展開しているが、まだ十分とは言えない。授業の狙いが達成されるような授業形態や言語活動を工夫するよう指導していく。

⑤ スピーキングテスト、ライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

各学校においてパフォーマンステストは実施されているが、目標値には達していない。パフォーマンステストに対する英語担当教員の意識をさらに高めていく必要がある。特に、「話す」ことの評価に関する評価規準のモデル等を示し、適切な評価の在り方について改善を図っていく。

⑥ 授業における、英語担当教員の英語使用状況

【中学校】H29：達成値 83.7% H30：目標値 85%

【高校】H29：達成値 44.6% H30：目標値 50%

学校訪問や研修を通じて、英語で授業を行うことの必要性和具体的な方法について指導・助言を行っているが、目標値には達していない。

今後は、教員が英語を使って生徒の言語活動を積極的に行わせているよいモデルを示すなどして授業改善を促し、全ての教員が原則、英語で授業を行うことをめざす。

⑦ 域内の小学校における、教員の英語指導力の向上

【小学校】

文部科学省との連携・協力による放送大学「小学校外国語教育教授基礎論」講座等を各学校に周知し、指導力の向上の意識を促している。各学校においては、英語の早期化・教科化に向け、「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」「英語教育推進リーダー中央研修DVD教材」等を活用した校内研修の充実が図られてきている。

今後も、研修や学校訪問等を通じて、小学校英語教育の理解及び授業力・英語力の向上を図り、英語専科教員や英語中核教員を中心に、小学校教員の英語指導力の向上を図る。

⑧ 域内の全ての学校における、研修実施回数、研修受講者の人数及び全英語担当教員（小学校において全教員）に占める割合

【小学校】H29：実施回数 19回 受講者数 556名 H30：目標値 20回 600名

【中学校】H29：実施回数 22回 受講者数 425名 H30：目標値 20回 500名

【高校】H29：実施回数 17回 受講者数 215名 H30：目標値 20回 260名

平成29年度は、全ての校種において、ほぼ予定どおり研修を実施することができた。今後とも、次期学習指導要領の円滑な実施に向けて、各校種において充実した研修となるよう内容を工夫し、教員の英語力・指導力の向上を図っていく。

(3) 研修の体系と内容の具体

研修名	①「We are Homeroom Teachers!!」 ②「中学校外国語科教員授業力・英語力向上セミナー」 ③「変わる！これからの高校英語」
対象者	① 小学校教員（校内の外国語教育の指導的役割を担う教員） ② 中学校英語担当教員 ③ 高等学校英語担当教員（全日制は各学校1名以上）
目的	① 小学校外国語教育の方向性についての理解、授業力・英語力の向上を通して、各校の中核教員の養成及び外国語教育に対する学級担任の意欲向上を図る。 ② 生徒が身近な事柄について、自分の思いや意見を英語で表現できる力を育成するために、中学校英語担当教員の高い英語力の獲得と指導力向上をめざす。 ③ 4技能をバランス良く育成するための授業構成法を習得し、授業力の向上をめざす。
受講予定者数	① 各学校1名（3年間で各小学校から1名受講する） ② 全員（3年間で中学校英語担当教員全員が受講する） ③ 英語担当教員（全日制は各学校1名以上）
外部専門機関及び研修協力校との関わり等	・ブリティッシュ・カウンシルに対し、外国人講師による英語漬けの集中研修を依頼する。 ① 2日間 ② 2.5日間 ③ 2日間
計画の具体	① 平成29年度～31年度までの3カ年計画で実施。 ②③平成28年度～30年度までの3カ年計画で実施。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月		
5月		
6月	高等学校「変わる！これからの高校英語①」 ・授業力向上研修1日間 英語教育推進リーダーによる研修実習	
7月	小学校「We are Homeroom Teachers!!」 ・授業力向上研修：2日間 英語教育推進リーダーによる研修実習	英語運用能力向上研修 中学校：2.5日間 ・外国人講師との演習、 英語漬けの集中研修
8月	中学校「中学校外国語科教員授業力・英語力向上セミナー」 ・授業力向上研修：2.5日間（14時間） 英語教育推進リーダーによる研修実習	英語運用能力向上研修 小学校：2日間 ・外国人講師との演習、 英語漬けの集中研修

		・外国人講師とのチームティーチング演習、効果的な言語活動の在り方等
9月	高等学校「変わる！これからの高校英語②」	授業力向上研修 高等学校：1日間 ブリティッシュ・カウンシルによる講義・演習
10月		
11月	高等学校「変わる！これからの高校英語③」	授業力向上研修 高等学校：1日間 ブリティッシュ・カウンシルによる講義・演習
12月	小学校「We are Homeroom Teachers!!」 ・実践報告会：0.5日間	
1月		
2月		
3月		
【その他の取組】		

